

# THE Y S MEN'S CLUB OF NASU

# NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2019~2020年度 No.236

## 9 月報

那須クラブ会長 主題

### 地域につなげ那須ワイズ



強調月間：ユース

#### 今月の聖句

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、なんの得があろうか。

マタイによる福音書 16 : 26

2019~2020年度 主題

国際会長：(IP) Jennifer Jones (オーストラリア)

「より良い明日のために今日を築く」

アジア太平洋地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)

「Action!」

東日本区理事：(RD) 山田 敏明(十勝)

「勇気ある変革、愛ある行動!」

北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)

「われら北東部、世界のワイズメンと共に前に進もう」

#### ・ 9月第1例会

日時：9月27日(金) 午後6時30分~

場所：日本キリスト教団西那須野教会

司会 副会長 田村 修也

開会点鐘 会長 河野 順子

ワイズソング・ワイズ信条 一同

聖書朗読・祈禱 司会者

会長挨拶

ビジター紹介・自己紹介

会食

次年度のボランティアスクールの開催について

主事 平山 雄大

アジア学院の収穫感謝祭、バザーの準備について

諸報告 那須ワイズ

那須YMCA

YMCAの歌 一同

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

会費：1,000円

出欠の連絡は9月25日(水)までに田村副会長迄

#### クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：藤生 強

ブリテン：田村 修也・村田 榮

#### 8月例会データ— (出席率：100%)

在籍者 6名

例会出席者 6名 メネット 3名 YMCAスタッフ 1名  
ゲスト(ユースリーダー) 5名

#### 9月 Happy Birthday

なし

#### ・ 10月第2例会 (役員会・バザーの準備)

日時：10月11日(金) 午後6時から

場所：田村ワイズ宅

#### ・ 10月第1例会 (アジア学院収穫感謝祭に参加)

日時：10月12日(土)・13日(日)

場所：アジア学院

## 9月巻頭言

副会長 村田 榮

### 夏の雑感

今年の夏は、昨年に比べて梅雨明けが1か月近く遅れて7月下旬になりました。梅雨の間の肌寒さが嘘のように猛暑となりました。比較的涼しいとされている那須でも35度を超える酷暑となり、熱帯夜の日も続きました。そのために「クーラーがあつてよかった」と思う毎日でした。年を取った両親は、熱中症予防対策としてクーラーはつけっぱなしでした。

この長雨と酷暑のため作物は不作・不作！！元気なのは、我が家の山の木々で早朝・夕方の少し涼しくなった時に鳴くガビチョウ（特定外来生物に指定されている。奇妙に聞こえる和名ですが、これはこの鳥の中国名、画眉鳥をそのまま日本語読みしたものです。台湾、香港、中国南部から東南アジア北部にかけて生息している、チメドリ科の野鳥で、実に大きな声で囀る一方、頭部は明るい茶色で眼は大変目立つ太い白で縁どられ、その白が眼の後方に長く伸びています。声といい、顔の色合いといい目立つ野鳥で、奥ゆかしさとは真逆の南国の野性味あふれる感じの野鳥です。ガビチョウの輸入は1970年代に飼育鳥ブームにのって急増。野外での観察記録は1980年代に九州で、1990年代に関東で観察されて以来、次第に人目につくことが多くなっているようです。関東では、多く観察されるポイントとして、東京都内では高尾山が有名です。いわゆる、かご脱け種が次第に自然増殖したといわれています。七色の美しい声を持つともいわれています。）さえずりとは言いがたく、賑やかを通り越し、うるさいと感じるほどです。そして草、草、草。雨が降っても日照りが続いてもあつという間に成長してしまう。畑は作物よりも草が生い茂ってしまいました。それに反して我々の体力、気力は後退気味。暑い昼間は畑に出ることもできず、少しでも涼しい時にと早朝からの野良仕事、仕事の段取りは進みません。

8月下旬からの九州地区の台風の被害、台風15号による被害・爪痕。そしてそれに乗じて高齢者の弱みに付け込んだ、あくどい・ひどいやり方には憤りを禁じえません。倒木・障害物が取り除かれ一日も早い道路と電気の復旧がされ、すべてに平安が戻ることを祈るばかりです。テレビのニュースを見るたびに、もう少し若ければ、片付けのボランティアでお手伝いに行ったのと思う毎日です。他人事でなく明日は我が身に起ってくるかもしれません。危機管理と防災について学び、備えが必要ですね。

いろんなことがある中、ここ那須は、美しい紅葉の季節を迎えようとしております。



8月（納涼）例会 於：塩谷キャンプ場 2019年8月24日

## 8月(納涼)例会

書記 藤生 強

日時: 2019年8月24日(土) 午前10時~午後3時

場所: 塩谷町 とちぎYMCA塩谷キャンプ場

参加者: 河野、田村、鈴木、原田、藤生、村田の各メン。原田、藤生、村田の各メネット。ゲスト・ユースリーダー5名(室橋岳人(むろさん)薄井沙也加(ラミ)西勇祐(ケンイチ)金井修志(しんちゃん)遠藤さやか(ちゃっぴ〜))、YMCAスタッフ1名(平山主事)。合計15名

8月例会は、YMCA塩谷キャンプ場にて納涼例会を行いました。

キャンプ場再開へ向け「除草」と「朽果てたキャビン撤去」などのため、7月に業者が作業を行いました。これによって、キャンプ場に入るとフィールドの端まで見渡せるようになり、震災前の子も達が自然を楽しんでいたキャンプ場が思い出されました。

例会には那須Yボランティアリーダーを招き、「キャンプ体験」を行いました。まずはキャンプの定番メニュー「カレーライス作り」を行いました。薪割・飯盒を使った御飯炊き・大鍋のカレー作り、と野外



キャンプ料理を堪能しました。リーダー達はこの夏キャンプに参加していたこと

もあり、手際よくカレーライス作りを行い、1時間余り!で出来上がりました。

フィールドにある大きな木の下にテーブルを準備していましたが、突然の大粒の雨に、ちょっと狭いですが屋根のある野外炊事場にてカレーライスを食べました。美味しいカレー、近い距離での会話と、和気あいあいとした楽しい時間を持つことが出来ました。

雨もあがった食後は、みんなで「キャンプファイヤー」を模してゲームを行いました。井桁に組んだ薪を中心に丸くなり、「エールマスター」役の田村ワイズ進行のもと、ゲームを楽しむだけでなく、そのゲームの流れやねらい・キャンプファイヤーの歴史や意味などの解説を交えながら、楽しみながら学びました。YMCAキャンプのゲームなどは先輩リーダーから後輩リーダーへ伝えられていきます。ゲームのやり方は教えられても、その意味や願いなど全てを伝えることが出来ません。田村ワイズや村田

ワイズの「先輩キャンパー」からの学びは、リーダー達そしてキャンプディレクターを行っていた私自身もとても有意義なものとなりました。

半日ではありましたが、塩谷キャンプ場でのキャンプを満喫し、例会を終了しました。



ブリテンで何度も紹介しているように、東日本大震災による福島原発事故発生時に漏れた放射

線物質はキャンプ場付近では周辺と比べて少し高い数値(国が示した安全な数値内ではありますが・・・)が表示されたため、大事を取って使用を休止しました。数値が下がったら再開するはずでしたが、放射線に対する考えや捉え方は千差万別あり、YMCAとしても再開の機会をうかがいながら8年の月日が流れました。とちぎYMCAとしても塩谷キャンプ場を「再開するのか」、再開するとしたら「何時」「何のプログラム」で行うのか検討中ではありますが、



今回の例会が「再開の第1歩」となれば願っています。

(原田ワイズよりキャンプ場のために金一封の贈呈)

## 9月第2例会(役員会)報告

日時: 9月4日(水) 午後12時30分~

場所: ココス西那須野乃木店

出席者: 河野会長、田村副会長、村田副会長、協議事項

### 1. 9月例会の件

9月27日(金)に日本基督教団西那須野教会にて、ユースリーダーを巻き込んで行う次年度開催するボランティアスクールの実施について平山主事より説明を聞いて相談する。リーダーの産を呼び掛ける。参加締め切り9月25日。当日の食事は弁当とし、リーダーの参加が多ければ当日会費を1,000円とする。アジア学院の収穫感謝祭のバザーの準備状況について話し合いをする。

### 2. アジア学院収穫感謝祭参加の件

10月12日(土)13日(日)に実施される収穫感謝祭に参加し、バザーを実施。収益金をアジア学院に捧げる。「季節の贈り物」に使うものの準備がどう進んでいるかは心配である。準備を10月11日

(金)の午後6時より田村宅で行う。同時に10月第2例会(役員会)も開催する。

3. 11月第1例会は、日本の文化茶道に学ぶとし、日時については田村副会長に一任する。

4. 塩谷キャンプ場の整備等について話し合った。同時に原田メンより託された200,000円の利用方法と電気工事の見積もり(1,200,000円)を含めて、とちぎYMCAと話し合う必要がある。

5. シイタケコンブの購入は、10月初めにアジア学院収穫感謝祭のために購入。

## 旧西那須野(那須西原)の緑と水(第78回)

田村修也

この山県内務卿の式辞に対して、樺山栃木県令は、「那須原疏水幹線開鑿の工、既に成り、内務卿閣下臨場して通水式行われる。惟ふに、二千余年来微塵の境、十里不毛の地、日ならずして、田疇の蕃植人煙の鬱密も見るに至るべし。不肖資雄、乏を県令に受く、豈欣喜せざらんや、自今、益々県民を督励し、事業を暢達し、閣下今日の盛意に答へんとす。謹んで答辞を呈す」と答辞を読んでいます。また、那須開墾社を代表して、矢板武さんは「那須原疏水成乎、北白川宮殿下及各貴顕閣下ノ来臨ヲ辱シ、茲に疏水ノ式ヲ挙ラル。各開墾社惣代武等亦々盛典の末班ニ列シ、親ク此盛業ニ参シ、此福利ヲ蒙ルヲ得ルニ至ル。嗚呼亦聖代ノ賜モノニシテ何ノ幸福ソ、感喜交モ轅マリ祝セントスルモ、其辞ヲ得ス。厝抑モ那須原疏水の挙タル往昔既ニ数回、其最モ著明ナル者長島新田・山口堀トス。然レトモ其一は敗懐、其一は微々数ルニ足ラス。維新後明治八年、武等亦々此工事ニ志シテヨリ或ハ試測ニ従事シ、或ハ地方庁ニ上願シ奔走スルコト此ニ五年、明治十二年、伊藤内務卿・松方勸農局長ノ一顧を忝シテヨリ始メテ其歩ヲ進メ、十三年一月、先ツ開墾ニ着手セシモ、移住民及ヒ動物ノ飲料ヲ欠クヲ以テ、資金貳万千余円ヲ仰キ、飲料水路開鑿ニ起工セリ。当時物価変動ノ為メ、工事に不足ヲ生シ、十五年又三万五千余円ノ増資ヲ仰キ、僅カニ成功セリ。而メ後漸次移民増殖スルニ従ヒ、農家慣習ノ経済上人々水田ヲ希望シテ止マス。且ツ水源ノ工事ニ不完全の所之レアルニヨリ、十六年ヨリ大水路開鑿ノ止ヲ得ざるニ決シ、上願数回、隧道水路ノ試鑿ヲナシ、遂ニ又官ノ資ヲ仰キシテ、本年四月二日ヲ以テ金拾万円御支出ノ特典ヲ蒙リ、起工僅カニ四ヶ月ニシテ工事忽テ成乎。数千年茫茫無涯棘藁蕪の荒原、水路縦横村落櫛比東阡南陌相接

スルニ至リノ端緒ヲ開ケリ。目下各社既成開墾反別百五十余町歩、移住民百八十戸、嗚呼是レ誰ノ賜リヤ、往昔独力新田を創メ水路ヲ開キシ長島山口其人ヲシテ当時ノ盛世ニ逢ハシメハ、疏水の盛典ハ今日ニ在ラスシテ、往昔ニ在ラン。彼ヲ思ヒ此ヲ考フレハ則テ其幸不幸今昔如何ソヤ。武等感喜交モ極マツテ祝セントスルモ其辞ヲ得サル所以ナリ。於此乎各社奮テ勤勉開墾ニ植樹ニ牧畜ニ、日ニ成り月ニ進シテ、以テ此盛世の隆挙ニ奉答セントス。各開墾社惣代矢板武謹テ奉祝ス。那須開墾社惣代 矢板武 明治十八年九月十五日」と挨拶を述べています。

印南丈作さんはこの通水式について、ご自身の履歴書に「同年十一月(ママ)十五日、於三島通水式御執行。北白川宮殿下、内務卿閣下御臨場、土木局長三島通庸殿、当県令」樺山資雄殿、随官一同御臨席、無滞此工事ノ如此速ニ出来事ハ、先ニ試工事中ニテ其土工六部通出来シオハ、数月ニシテ此成功ヲ見ルニ至ル。右執行ノ節、是迄水路出願苦心ノ段被聞召、北白川宮殿下ヨリ矢板印南へ銀杯三組(ママ)一組下賜候。」この履歴書にありますように、印南丈作三斗矢板武さんは、長年の功労を賞されて、北白川宮能久親王よりおのおの銀盃一組を賜りました。印南丈作さん、矢板武さんの数年にわたる大きな努力、群を抜いた行動力・政治力が実を結んで、那須疏水の完成を見るにいたったのでした。お二人の喜びは何ものにも代えがたい者であったことと思います。田嶋董翁は名著那須疏水の中で「印南矢板両人は、多年の辛勞始めてここに報いられ、今日子の栄誉に浴す、その喜びや察するに余りある」と記しています。(以下次号へ)

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園  
園長・理事長 福本 光男

「神はノアと彼の息子たちを祝福して言われた。『産めよ、増えよ、地に満ちよ。地のすべての獣と空のすべての鳥は、地を這うすべてのものと海のすべての魚と共に、あなたたちの前に恐れおののき、あなたたちの手にゆだねられる。動いている命あるものは、すべてあなたたちの食糧とするがよい。わたしはこれらすべてのものを、青草と同じようにあなたたちに与える』」 聖書 創世記9章1～3節(下線は筆者)

3. 11 東日本大震災・東電原発事故後、佐賀県の認定こども園のA園長先生から電話をいただきました。この地域の子ども達や保護者の大変な状況を強

く思われたのか、電話口の先生は泣いておられました。当時、西那須野幼稚園の放射能汚染の具体的な数値はわかりませんでした。ただ那須町のデータを見る限り、ここもある程度の汚染が予想され、不安のなか子どもたちの最善を考え、私の判断で室内保育をしていた時期でしたので、A園長先生からのお見舞いが心強く感じたことを覚えています。

今日は佐賀県での豪雨の報道があり、お見舞いの一報をA先生に入れたところ、園は休園にし、地域の避難所として、受け入れ体制を職員で準備しているとの事でした。

このところ、数十年に一度と言われる自然災害の報道を耳にすることが増えてきました。いつどこで災害が起きてもおかしくない環境になりました。人間が目先の利益のために行っている自然破壊をはじめとする地球環境への悪影響は、温暖化による気候の変動による自然災害、農作物の不作、不漁等という形で人間に戻ってきているように思えます。地球の肺といわれるアマゾンの森で、開発によるものも含め、今までにない位広域の森林火災が起きています。このような状況で、大変印象深い作品の1つを思い出しました。約40年前の月刊誌カメラ毎日(現在は廃刊)にピーター・ビアードの作品で「ジ・エンド・オブ・ザ・ゲーム」というタイトルの写真とコラージュが掲載されていました。当時、アフリカ象が密猟によって減少し、国立公園で隔離保護政策をしました。空撮による作品で覚えているのは、移動している象の大群、食べ尽くされて何もなくなった元草原、そして、餓死した大量の象の死骸の写真でした。地球規模による環境の変化にともない、今後人類はどのようになるのでしょうか。

冒頭の聖書の箇所は、創世記「ノアの箱船」の物語の一部です。人間が自然を支配するのではなく、神から共生できるように管理をゆだねられたことを、人間は忘れてきました。私たち大人が子どもたちの将来を見据えて、地球市民として、環境についても真剣に考え、生活スタイルの見直しや対策を実行していく必要性を感じます。(しらゆり 2019. 8. 30号 加筆修正)

## 御園那須老人ホームだより

社会福祉法人 イースターヴィレッジ  
聖園那須老人ホーム 赤坂 英昭  
傾 聴

初秋の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。今年も猛暑が続

き県内でもこどもから高齢者まで熱中症の記事が連日新聞に掲載されました。ホームでも飲み物タイムや室内の温度調節等熱中症予防に取り組みましたがまだまだ油断のできない日々が続きます。

さてホームでは、5月に倉庫として使っていた予備室を改修してオープンした「よろず相談室」が入所者の方々にも浸透してきました。ホームには厚生労働省の指針に従い苦情解決の仕組みが構築されており、入所者に日々接している支援員や相談員を通して、苦情はもちろん日常生活における疑問や、設備や日課に関する事など受付対応してきました。しかし日々の日常生活の中では、入所者の皆さんの話にじっくり耳を傾ける「傾聴」の時間や環境も作ることが困難で、なかなか実践できませんでした。そのため入所者のより多様化と複雑化するニーズに応えられる様開設しました。



「傾聴」はコミュニケーション技法のひとつです。入所者の話にじっくり耳を傾け共感する

ことで、入所者の本音や真のニーズを知ると共に孤独感や不安を和らげ、心の奥の悩みを解消するきっかけを作るためのもので、深い役割と意味を持っています。また、傾聴を通して相手の気持ちに寄り添うことで、信頼関係の土台も築くことができます。もちろん自分から話すことのない入所者にも日常生活の中で職員全員が傾聴と共感の姿勢を忘れずに本音や真のニーズを引き出せるよう心掛けて対応していきたいと思います。

よろず相談室には、男性、女性の相談員兼介護支援専門員が対応しており出来るだけ気軽に来られるような部屋の雰囲気づくりとお茶やコーヒーの用意もしており、よりリラックスしていただけるよう準備をしています。

尚、よろず相談室のスタッフは、共に介護支援専門員(ケアマネージャー)でもありますので連絡をいただければ外部の方々の介護相談はもちろんの事よろず相談を受け付けますので、近所にお茶を飲みに来る程度の気軽さでお立ち寄りくださいとの事です。

## YMCAだより

【とちぎYMCAサマープログラムが終了しました！】

7月中旬よりスタートしましたとちぎYMCAサマープログラム（ウェルネス・イングリッシュプログラムを含む）が予定通り実施され、今年の夏は特に暑い夏でしたが大きな事故やケガもなく、無事に終了いたしました。プログラム中、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。

那須YMCAでは、大学生のユースボランティアリーダーが各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に楽しみながら学び、成長することができました。

YMCAのプログラムにはCaring(やさしくする)、Honesty(しょうじきになる)、Respect(人を大切におもう)、Responsibility(できることは自分からする)というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

### 【とちぎYMCA合同リーダートレーニングを行いました!!】

9/1に那須・宇都宮・トライ東の3拠点のリーダーで野外炊飯のトレーニングを宇都宮市冒険活動センターで行いました。普段は子どもたちに教えるリーダーがメンバーとなり、子どもたちと一緒に行うプログラムを想定し、薪割り・火付け・カレー作り



をスタッフ・リーダーOGのもと、基礎を学び自分たちで考えながらトレーニングに取り組んでいました。また、野外炊飯の学びだけでなく

交流の少ないリーダーとの交わりも見られ大変有意義なトレーニングとなりました。トレーニングの先にある、子どもたちとの活動に向けてよい助走となりました。

### 【とちぎYMCA・那須YMCAの9月の予定】

- ・9/1(日)とちぎYMCA合同リーダートレーニング@宇都宮市冒険活動センター
  - ・9/3(火)高校生ボランティアスクール報告会
  - ・9/6(金)～9/8(日)ユースボランティアリーダーズフォーラム
- ※今回は9名のリーダーがとちぎYMCAより参加します。内、那須YMCAからは4名のリーダーが参加します
- ・9/7(土)サタデークラブ@西那須野幼稚園(紙すき体験)

- ・9/14(土)～9/15(日)リレーフォーライフジャパン2019とちぎ
  - ・9/14(土)サタデークラブ@西那須野幼稚園(紙すき体験)
  - ・9/15(日)Yキッズ@鹿沼市自然体験交流センター(野外炊飯)
  - ・9/21(土)サタデークラブ@宮崎りんご園(りんご狩り)
  - ・9/21(土)～9/23(月)全国YMCAリーダー研修会@山中湖
- ※とちぎYMCAからは1名のリーダーが参加します。
- ・9/28(土)サタデークラブ@宮崎りんご園(りんご狩り)

## ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言



- ①西勇祐(ケンイチ)
- ②国際医療福祉大学 薬学部薬学科 1年
- ③神奈川県
- ④子どもが大好きなので子ども

と関われる、また川遊びやスキー等の活動内容に興味を持ったことがきっかけです

⑤夏の海キャンプ。成功や失敗含めて本当に良い経験ができ、よりよいリーダーになるためにどうしたら良いか考えさせられたから

⑥これからのんびりと考えたいです

⑦YMCAに入って心から良かったと思えます!! これからもよろしくお願いします!

## 編集後記

今月もまたまた遅くなってしまい申し訳ありません。ガビチョウがどんな鳥か知らない方に写真を添付します。

